

私の大原ベストポジション



大
原
草
紙

第67号
平成31年4月
春季号

高野川の桜並木

井出町 前田明美



大原には豊かな自然があり春夏秋冬いつでもその景色に癒されます。二十三年前、大原へ嫁いで来たのは四月も終わる頃。戸寺町の自宅玄関を一歩出ると高野川沿いに見えたのは桜木の新緑。きれい！戸寺町には十年住み、三人の子育てはここから始まりました。初めての土地、初めての子育て、毎日が必死だったのを覚えています。結婚して翌年実家近くの病院で長男を出産。大原に戻り子育てが始まると全然寝てくれない長男を連れて毎朝毎夕、高野川沿いをベビーカーで周回する日々。育児の大変さを和らげてくれたのは声をかけてくれる近所の方と大原の美しい景色でした。

子ども達との思い出がたくさん詰まつた高野川沿いの桜並木。今でも懐かしくて毎年満開の桜を観にいきます。今、私が携わっている大原での活動の原点はこの時になります。やさしい里の人と豊な自然の中で子育てする人を増やしたい。地域で子育てを支えたい！いつまでも子どもの声が聞こえる大原であつてほしいという願いからです。この春、長男は社会人になります。大原の良さを伝え、大原を支えていける大人になつてほないと願っています。

大原が歩んだ 明治・大正・昭和・平成 の写真アルバム

夏ごろ発行を目標に2月中旬。写真集めと選定作業にも熱が入ってきました。そんな日、京都バス(株)本社へ会社設立当時の写真はありませんか、と、訪問しました。話を聞いていただいた課長さんお二人から貸して頂いた資料「30年のあゆみ」(昭和51年8月刊)は大変興味深いものです。

私の幼児の頃(終戦後)バスで出掛けるのはほんのマレ。バスは木炭車。八瀬遊園地(そんな名前)の折り返し運行。帰りは超満員、八瀬登山口を過ぎ下瀬の腹まで来ると子供は乗ってよ、とか言つて大人はゾロゾロと下車、後ろから押す。ガソリンなどあてにできないう時代。木を燃やしガスを発生させ走る、パワー不足でプウ、プウ、プウと息も絶え絶えの様子と、思い出しました。そんな写真を貸して頂きました。



戦後最初の
購入車

實光院 744-2537
寶泉院 744-2409

勝林院護持会会則

勝林院護持会は勝林院輪番の寶泉院、實光院の両院と善良な協力関係を保ちつつ目的達成のため活動致します。詳細は左記までお尋ね下さい。



初代バス

大原記念アルバムは夏頃完成予定。
詳しくは次号でお知らせ致します。

沿革史によると京都バスの前身は大正10年12月設立の洛北自動車、出町柳一三宅八幡宮往復。昭和元年12月鞍馬自動車と改称し基盤強化。鞍馬電車と昭和5年9月合併。さらに再編成などその後21年8月洛西地域を拠点とする嵐馬バス、確かに聞いた名前。天狗のうちわ風の社章もうなづけます。

12月2日(日)戸寺町公民館にお邪魔し8名の方にお集まりいただき戸寺町の伝承などをお聞きしました。

明治以前からか 「左義長の日のお札さん授与」



戸寺町では左義長の日、町役員らで準備したお札を、住職の祈祷を受け各戸に配っていると云ふ。このお札は、遠く江戸時代の古文書に出ている「十禅寺」と関連付けられる木版で和紙に一枚一枚印刷し柳の木に挟み付け当日に備えるということが、延々と今に伝わっています。戸寺町の町内には檀家寺がないのでこういった習慣は無いと思っていたのでこれにはビックリしました。あらためてご紹介

1月27日(日)古知平町公民館に10名の皆さんにお集まりいただきました。

今も「お伊勢参り」は代参で伝わる、年配の方の記憶では昔は伊香立ち峠を越え、真野から船で琵琶湖を渡り伊勢参り、当然徒步で。近年まで帰つてくると時間を定めて皆で出迎えたといふ。なんか、上方落語の『七度狐』をほうふつさせられる。神社に参拝するそうだ。町内の出入り口に結界のお札さんは建物に愛宕参りは無いが、八坂神社に参拝する。町内で愛宕参りは無いが、八坂神社に参拝する。町内の人々の温かさは今も健在。残つて欲しいでした。



次回以降のご案内

■ 5月26日(日) 15時
百井町公民館(予定)

7月

小出石町公民館(予定)

(※4月14日に予定していましたが都合により7月に延期致します。)

No.4
中止

大原に移住してきた農家ですけど。

林業の歴史に触れ、西村さんの話を聞いていると、足搔ける範囲がわずかしか残されていない、どうしようもない状況にあるように思えた。山里に住んでいる以上、何か考えないとこりやヤバい。まずは知ることから。それにしても、熱のある人で、インタビューしながらのお酒が美味しかったです。
(音吹畠高田)



西村辰也（にしむらたつや）さん、

2016年から野村町在住。

奥さんの由有（ゆう）さんと
もうすぐ二歳の長男と3人家族。



#003 西村辰也 森の再生を夢見て。

大学を卒業しても自らの専門性を活かせる仕事は限られ、近畿圏で専門職の募集が出ていた滋賀県庁に就職した。林道開設や地すべり防止といった土木工事の監督業務の経験を経て、現在は外郭団体である造林公社に出向し、社営林での伐採、搬出、木材販売の業務に携わる。



現在出向中の造林公社での仕事現場
風景。この話も興味深かった。いずれ
また機会があれば。

昨年の台風は山里大原に衝撃的な被害をもたらした。だが京都府立大学で森林科学を学び、滋賀県庁で林業技術職員として働く西村辰也さんにとつては倒木は見慣れた光景になりつつある。

戦後の拡大造林政策で日本中に植えられたスギ・ヒノキの伐採適齢期は50年。ところが周知のとおり費用回収が困難との理由から放置されて久しい。「歴史上、これだけ多くの、巨大なスギ・ヒノキに囲まれて暮らす日本人は我々が初めて」と言う。風水害等で倒木するスギ・ヒノキは今後も増え、残るのは後継樹が十分に育っていないことは言ひがたい森ばかり。そんな多くの課題を抱える人工林を日々の仕事場とする。

とにかく現場が、森が好きでオントドの境がない。休日も家族で山を練り歩き、林業関係者と会つては経験値を蓄える。植栽の専門家・アドバイザーとしか表現のしようのない、業界ではかなり異端な先生に師事するのは、机上の計画だけの画一的な施策が繰り返され、メディアに翻弄されてきた林業政策に対する義憤に近い感情があるのだろうか。森と言つても、地形、地質、斜面の向き、光の強さ、その地域の人の営みなどあらゆる要素は千差万別だ。そこを無視して、えいや！で植林しても思うように森は育たないと言う。フィールド調査によつてエリアの特性を見極め、その地域に適し、その地域の人々が望む森の形を描く。



そして、生態学を基礎に、古くから伝えられてきた植樹の技術も組み合わせて、植栽する樹種、数量位置を決めていくような手法を、これから森づくりの選択肢に加えたい。結果としてそれは災害を未然に防ぎ、見た目も美しく、生物多様性が豊かな森になるのではないか。何より地域の人々が大切だと思える森になることが重要だと考える。森の再生は誰しも夢見ることで、そんなのは理想論だとする人もいるかもしれない。だからこそ今、現場でデータを収集し、数字をはじく。理想的な計画を夢物語で終わらせないために、現実的な経費を算出することが第一歩だ。森づくりに携わる人々が「生業」として、その技術と見識を正当に評価される世の中になつてほしい。

決して木材生産の視点を否定しているわけではない。先人が我々の幸せを願い、苦労して植えた木に一切罪はない。ただ、補助金がなければ成り立たない、産業とすら言い難い日本の現代林業に就業しては、すぐに去つていく同世代の人を見ていふと、考へことがあるのだろう。



小出石のアズキナシ。木にして
も草にしても、その名前をあま
りにも知らないことを知る。



れんさいマンガ
＊66＊
アズマツネオ



お詫び

本紙題号は三千院門跡
堀澤祖門門主に揮毫をお願いしています。
お名前を誤って表記していました。心からお詫び申し上げます。

表紙の横顔

前田明美さんプロフィール

乳幼児（0～3歳）の親子のための交流スペース「つどいの広場」
ピーチくばーちく施設長。抜群の行動力と周囲への細やかな気配り、明るく気さくな人柄で、地域を盛り上げてくれる存在です。



大原の平成31年は大規模な学校行事から始まりました。

京都大原学院十周年記念式典

参加者は関係者を含め約300名。大原地域から学校が消滅する危機の中で、学校の先生方と地元関係者の奮闘で小中一貫校として10年目を迎えることが出来ました。

■ 1月26日（土） ■

第4回小中一貫教育 小規模校サミットin大原

この日明け方からの積雪はこの冬初除雪日。遠来からサミット参加の皆さんに大原の自然界を味わつてもらいましたが、大原学院の皆さんにはどうだったのでしょうか。普段以上に早朝出勤で除雪作業をされた様子。「こんな日に何も積もらんでも」と私も思ったものでしたが何分1月26日に雪が積もつてもナニの不思議もなし。



【編集子のつぶやき】
一貫校二十周年を迎るために

全国的な少子高齢化の時代の中にあって、大原地区は市街化調整地域で「原則住宅は建てられない」施策と更に「核家族化」という、持つて行きどころのない大きな流れにあって、傍観していくはさほど遠くない時期に、三千院、寂光院などの一部寺院と、民宿と高齢者関連施設などの宿泊施設だけ元気な里となりはしないか。十年先が予見できない自分でですがこんなことを心

くり協会は大人バージョン「大原提言」を、去る1月19日（土）午後7時から学校の「ふるさとルーム」に約70名余りの聞き役を前に2時間余り質疑を交え開催いたしました。

この日登壇した方々は、石飛学校長、福間、岡林両教頭、学院卒業生高倉まどかさん、かがやき隊田邊さん、観観光保勝会社会長、里づくり協会

第1回
大人編
大原提言
開催 !!

から上田、西田の8名、各15分の持ち時間を超え熱く提言がされました。出席の皆さんから継続して開催するよう言葉が掛けられ、里協関係者は気をよくしています。次回開催は夏の終わりごろ。開催内容の更に充実させて次号の本紙でご案内するなどPRを致します。

